

＜親子春を告げる＞この月始めは暦(72 候)の上で“草木萌動(草木萌え出る)”から“蟄虫啓戸(すごもりの虫戸をひらく)”にあたり「いよいよ春」、「カワヅザクラ」、「カンザクラ」と“カンヒザクラ”が咲き出しました。これらのうち毎年“カワヅ”だけがマスコミに採りあげられますが、“カワヅ”は“カワヅ”の子(ルーツ)でなく“カンヒザクラ”の子、“カンザクラ”の異母(父)兄弟とのことです。今の桜はソメイヨシノに



＜カワヅザクラ＞

さきがけ「旅人の鼻まだ寒し初ざくら(蕪村)」にぴったりです。

＜足早に＞植物により春の感じ方が随分違うようですね。フキノトウの育ち具合は昨年とほとんど変わりません。オオイヌノフグリなどは少し早目です。雑木

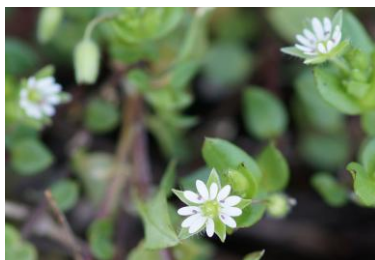


＜カンザクラ＞



＜カンヒザクラ＞

林の下生えではまだ見た目に殆んど変化がないのですが、昨年見つけたのと同じ株のシュンランは昨年に比べ1ヶ月以上早く花を咲かせています。



＜春の七草＞(コ)ハコベ(左写真)も春先から白くて小さくて可愛らしい花を付けますが、柔らかそうな緑の葉に目が行きます。てんぷらやおひたしにすれば旨そ



うな。ハコベは古来から食用、とりわけ産前産後に好いとされ、七草の一つになっています。今では正月七日に“七草粥”として食しますね。七草は古くは“若菜摘み”と言って野に出て摘んだようです。野に出ても七草はなかなか揃いません



が「茜(あかね)うら帯にはさんで若菜摘(一茶)」、

＜上：フキノトウ＞＜下：シュンラン＞

何とも好い風習ですね。(春の七種)秋は七“草”春は七“種”とのことです。でも七“草”粥、面倒ですね。「せり、なずな(ペンペン草)、ごぎょう(ハハコグサ)、はこべ(ら)、ほとけのざ(コオニタビラコ、前号のホトケノザは有毒)、すずな(ダイコン)、すずしろ(カブ)」は「河海抄(源氏物語注釈書、室町)からとのことです。



＜梅にメジロ＞枯野では小鳥たちが目立ちました。これからは野が花や若葉で一気に賑わい出し視線はそちらの方に行きがちになります。そんな折、花と小鳥、“梅に鶯”ではなくメジロのちょうどマッチした景色がたまたま在りました。SHCでもウメの花にメジロが来ていますが写真は別のところのもので、あまりに可愛いもので、お許しを。(文と写真：松本正勝)